

# 遠洋かつお・まぐろ地域漁業復興プロジェクト(東・中日本)

事業実施者：日本かつお・まぐろ漁業協同組合

(遠洋かつお一本釣り漁業)

支援期間：平成25年3月5日～平成28年3月4日

使用船舶名：寶榮丸,第11日光丸(499,499トン)

平成25年4月1日～平成28年3月31日

第21日光丸,第83稲荷丸(499,499トン)

平成25年5月1日～平成28年4月30日

第1日光丸,第18日之出丸,第8永盛丸  
(495,359,499トン)

## (取組の内容)

- グループ操業：7隻のグループ操業により広範囲の漁場調査・探索を行い、漁獲の安定化を図る。
- 分散帰港：集中入港による相場下落を避けるため計画的に入港する。
- 燃油使用料の省エネ：燃油消費モニターを設置し省エネ運航を徹底。活餌艙の温度を15℃から20℃に上げ省エネを促進
- 魚艙の設備改良：漁獲物の品質向上に向け、魚艙や配管の設備を改良
- 生活環境整備：入港時にインターネットを使用できるようにWi-Fiルーターを設置
- 水揚金のプール制導入：7隻の水揚金額の1/2をプールし配分することにより、漁獲量が少なかった船のリスクを分散



燃油消費モニター

新型海鳥レーダー

## (事業の成果)

- グループによる広範囲の漁場調査・探索により、**水揚量(7隻計、3年平均12,008トン)は計画(11,676トン)を332トン、水揚高(同3,028百万円)は計画(2,860百万円)を168百万円上回った。**
- 償却前利益は計画186,025千円(3年平均)に比して△19,615千円(3年平均)であった。
- 水揚単価(252円/kg)は、計画(245円/kg)より7円/kg高かった。**分散入港の効果があったと考えている。**
- 燃油使用量(7隻計、3年平均11,457kl)は計画(11,706kl)より249kl少なかった。省エネ運航の効果によると考えている。
- 魚艙設備の改良により、全て正規品として販売できた(次品はなかった)。
- Wi-Fiルーターの設置は乗組員から好評であった。
- プール制を導入したことで、水揚げ高の変動による収入リスクが低減された。